



金目川水系流域ネットワーク
世話人会

せせらぎ通信

金目川中流域の

鮎の生息の現状と

吾妻橋から大安橋間の鮎の生息密度

報告書作成時点 2016年3月31日

永尾 貴一

小生が秦野市鶴巻に住み始めてから20数年が経過しました。

当初、金目川では鮎はほと

んどいない状況でしたが、最

近はある程度復活しています。

金目川の鮎の生息の現状と

小生が知らない時代の古老の

話を記述致します。

昔は金目川での鮎の捕獲は

あきらめて他の河川に行つて

いましたが、現在はほとんど

金目川にて鮎の捕獲を楽しん

でいます。

川の浄化にご尽力いただい

た方々に感謝申し上げます。

文中の中流域は金目川の吾

妻橋から大安橋の区間と定義

いたします。



秋 すいすいと泳ぐ鮎

過去の状況

数人の古老の方々の伝聞による

50年以上前の金目川は今より水量がはるかに多く2倍以上あった。

その例として、田に水を引く時期でも飯島の堰を超えて水は流れていた。飯島の堰の下流が干上がつてしまつ現象は全く無かつた。

また、中流域でも水量が多く、平水時でも川を横断するのは困難であつた。もちろん、鮎は今よりはるかに多く、大型で容易に捕獲できた。

現在、絶滅危惧種になつたアユカケも大量に捕獲できた。

現在、絶滅危惧種になつたアユカケも大量に捕獲できた。

50〜20年前

数人の古老の方々の伝聞による

水質も悪化し、水量も減少して、鮎だけでなく多くの魚が激減した。鯉だけが増加していた。

20年前から5年前

永尾の鮎捕獲の経験と、釣り師や

網師の情報による

中流域では少しずつ水質は改善したが、水量は減少したまま。

護岸工事の増加は魚にとつての生息環境は悪化した。

この時期の鮎の捕獲状況は5〜6時間の投網で2〜3匹程度。

5年前〜現状

水質は改善が進んだためか、鮎は増加している。ただし、水量の減少は改善されておらず、飯島の堰の下は時々干上がっているのが現実です。

中流域の現状の区間別の生息数は次号に掲載をいたします。

ただし、現状の鮎の生息数とその大きさは50年以上前の状況には到底及ばない。

鮎や他の魚の生息環境改善のための提案

●飯島の堰には魚道を作る…

目的は濁水時でも鮎等の本来遡上すべき魚類が上流に遡上できるようにする。

●飯島の堰の下流が3日連続で

干上がったら4日目は堰の下流にも水が流れる様にする。

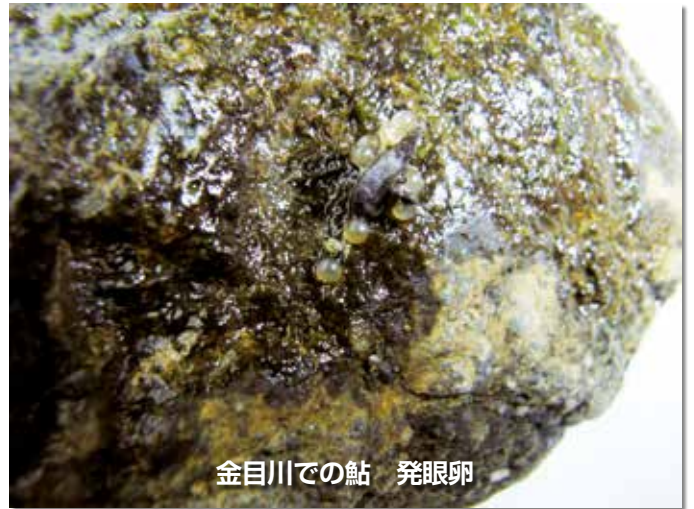
濁水が継続したらこのパターン。堰の下流は3日間の断流と1日は下流にも水を流すを繰り返す。

●護岸工事に関し…

護岸の表面には金目川の川底から採った天然の石を貼りつける。川にある天然の石には鮎等の好む苔が貼りつくが護岸工事に使うセメント等には苔等は貼りつかない。



浅瀬で群れている鮎



金目川での鮎 発眼卵



10月末の落ち鮎の体長



鮎との出会い

杉山治男

最初の出会いは今から64〜65年前、小学校低学年の頃です。

相模川下流、通称馬入川近くで育った私はよく友達と川遊びに行きました。トンボ取り用の網を使って川に入り、水草のあるあたりに網を入れると小鮎が入りました。

バケツの中に入れて中にいるフナやハゼと異なり、絶えずバケツの中でジャンプをするし、すばしっこく泳ぐその元気の良さは、他の魚たちを圧倒するものがありました。

しかしその元気の良さ姿の美しさに反して1時間もしないうちに死んでしまいました。そのため何かかわいそうに印象深い魚でした。

小学校も高学年になり大人用の自転車に乗れるようになると行動範囲が広くなり、遠乗りで厚木方面まで鮎釣りに行きました。

釣り道具屋さんで釣り方を聞きこ

ガシ用の仕掛けとおもりを買い川でやってみました。

見るのと実際やるのでは大違いで大変むずかしい釣りでした。5本付いている釣り針とテングストが絡まってしまふのです。

釣ることより、そのトラブルを直すことばかりです。少しずつ慣れ2時間ぐらいやる内に17〜18cmの鮎が2匹釣れこれが竿でとった最初です。しかしその後、学生時代は鮎釣りをした記憶がありません。

再度の鮎との出会いは、就職先で知り合った田代さんという人から、酒匂川上流の玄倉川まで行くと大きな鮎がいると聞きま

した。早速、次の日曜日、購入したばかりの車スバル360に乗り玄倉川まで行きました。そこはまさに自然いっぱい場所であり澄んだ空気、透き通ったきれいで冷たい水がありました。

川の中の石はすべて御影石ばかりであり釣り人はほとんどいません。流れが急であったり大きな石があったりと釣りにくそうな場所でしたが、竿を出すと直ぐに強烈な引きがあり、竿が弓なるほどやっとの事で釣りあげた鮎。20cmからの美しいものでスイカのような香りのするものでした。

食べても大変美味しく、それから数年間は鮎釣りの期間中はこの玄倉川が休日に行く場所となりました。



美しい山、森林澄んだ空気、冷たく透き通る水、まさに大自然そのものでした。

しかしその場所は、丹沢湖となり、かつての世附川の部落や茶店等の思い出の場所はすべて湖底となつてしまい小生の鮎釣りは終りとなりました。

金目川水系で出会った野鳥たち

の発刊について

この冊子は金目川水系において最近3年間にあった野鳥（83種）を紹介する目的で作成したものです。毎朝、川沿いを散歩した時に撮影した写真と一部金目川流域に出かけた時も含めています。



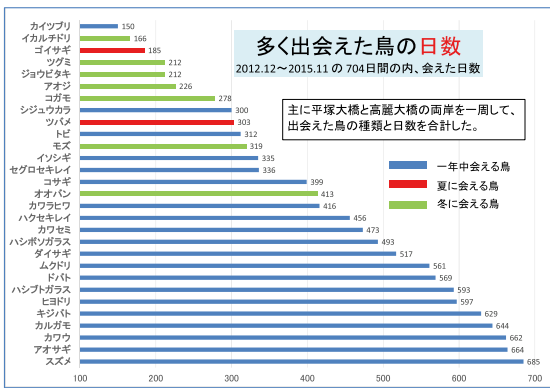
「多く出会えた鳥の日数」など、出会える頻度の目安になるグラフと「掲載した野鳥の大きさ比較」グラフも載せてみました。

冊子をご覧になって、少しでも、野鳥に親しみを感じていただけたら嬉しいかぎりです。

佐藤 道夫

川沿いの平地が中心でどなたでも運がよければ出会える野鳥ばかりです。単純に筆者が会えなかった、良い写真が撮れなかった、など、他の鳥にも会える可能性はあります。

実際の野鳥の姿に加えて鳥の科名・鳥の大きさ・撮影月も載せました。一般の方が観察する際に役立つことを目指したため、筆者の気づいたことを主としていますので、正確な情報は他の野鳥図鑑との照合をお勧めします。



「湘南里川づくり」取組みのご紹介

丹沢大山を源流に湘南地域を流れ、相模湾に注ぐ金目川（かなめがわ）水系。

「湘南里川（さとかわ）づくり」とは、湘南地域のふるさととしての川である金目川水系の河川等を地域の貴重な財産として次世代を担う子どもたちに引き継いでいくため、市民（湘南里川見守り隊）と行政の協働により清掃、草刈、植栽、生き物観察会など河川等の保全・活用に取り組む活動のことです。

この「湘南里川づくり」を流域全体に広げていくため、市民と行政とが連携し、設立された「湘南里川づくりみんなの会」。

「湘南里川づくりみんなの会」では、現在、「湘南里川見守り隊」の会員を募集中です。

みんなで、活動情報を交換したり、金目川水系の理想像について語り合いませんか？
ぜひ、ご参加ください！



写真は平成27年度の「平塚緑化まつり」に出展し、会の活動をPRした際の様子です。



湘南里川づくりに一緒に取り組む「湘南里川見守り隊」を募集しています。詳細は、ホームページで！

お問い合わせ先

湘南里川づくりみんなの会事務局

神奈川県湘南地域県政総合センター企画調整課

電話 (0463) 22-2711 (内線 2111~3)

ホームページアドレス

<http://www.satokawa.com/>

里川づくり

検索